

会議録

会議の名称	平成28年度第1回ふじみ野市総合振興計画審議会			
開催日時	平成28年7月11日（月） 午後7時から午後9時			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎5階 執行部控室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	市長	高畑 博	委員	大平 聡男
	会長	中村 賢一	委員	福村 光泰
	副会長	富田 信太郎	委員	西村 ひろみ
	委員	野澤 利夫	委員	牛場 清
	委員	柳沢 俊男	委員	進藤 美奈子
	委員	郷 秀樹	委員	渡辺 千尋
欠席者名	岸 昌哉委員、鈴木 絵里委員			
会議の議題	1. 開会 2. 委嘱状交付式 3. 正・副会長の選出 4. 諮問 5. 議題 （1）策定方針及び策定スケジュールについて （2）市民意識調査について （3）ふじみ野市の現状と課題について （4）その他 6. 閉会			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由	-			
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	・次第 ・資料1 ふじみ野市総合振興計画審議会委員名簿 ・資料2 ふじみ野市総合振興計画審議会条例 ・資料3 ふじみ野市最上位計画策定委員会及び検討委員会設置要綱 ・資料4 ふじみ野市自治基本条例			

		<ul style="list-style-type: none"> ・資料5 ふじみ野市最上位計画策定方針 ・資料6 ふじみ野市最上位計画策定スケジュール（案） ・資料7 平成27年度ふじみ野市市民意識調査結果の概要 ・資料8 ふじみ野市地方創生に向けた意識調査（最上位計画版） ・資料9 ふじみ野市市民意識調査票（平成28年度実施分） ・資料10 ふじみ野市の現況 ・資料11 ふじみ野市を取り巻く環境 ・ふじみ野市総合振興計画 基本構想／前期基本計画 ・ふじみ野市総合振興計画 後期基本計画 ・ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・ふじみ野市人口ビジョン
事務局		総合政策部 経営戦略室 （金子部長、樋口室長、武井副室長、山本主任、黒川主任） アビームコンサルティング株式会社
議事の確定	確定年月日	平成28年7月22日
	記名押印	役職名 会長 中村 賢一 ㊟

発言の要旨

発言者	発言の要旨
全委員 高畑市長 全委員	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付式 (委嘱状の交付) (市長あいさつ) (各委員自己紹介)</p>
事務局	<p>3. 正・副会長の選出</p> <p>続きまして、議題に入る前に会長・副会長の選出をお願いしたいと思います。「ふじみ野市総合振興計画審議会条例」第5条第1項により、「会長が会議の議長となる」とありますが、正・副会長の選出までの間は、市長が議長の代理を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p>
高畑市長	<p>それでは、ただ今、事務局から説明がありましたとおり、会長・副会長の選出ということで、私が仮の議長となって進行させていただきます。資料2「ふじみ野市総合振興計画審議会条例」第4条第1項に「審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める」となっておりますが、なにぶん初めての会ではありますが、どなたかご意見はございますでしょうか。</p>
牛場委員	<p>よろしいですか。本当に、顔を合わせるのは初めての方ばかりで、誰かと言われても誰を選べばいいのかということで、事務局で何か案はありませんか。</p>
事務局	<p>会長につきましては、東洋大学大学院客員教授の中村賢一委員にお願いできればと考えております。</p> <p>また、副会長には、ふじみ野市教育委員会教育長職務代理者の富田信太郎委員にお願いできればと考えております。</p>
高畑市長	<p>それでは、今、事務局案ということで、会長に中村委員、副会長に富田委員という提案がありました。委員の皆さんはいかがでしょう。意義はありますか。</p>
全委員	<p>異議なし。</p>

高畑市長	<p>それでは、異議なしという声をいただきましたので、本審議会の会長に中村委員、副会長には富田委員に担っていただくということで、決定させていただきたいと思います。</p> <p>それでは、会長・副会長の選出が終わりましたので、議長の職を辞させていただきますたいと思います。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、会長・副会長におかれましては、席を移動していただければと思います。</p>
中村会長 富田副会長	<p>(会長・副会長、席の移動)</p> <p>(会長あいさつ)</p> <p>(副会長あいさつ)</p>
事務局	<p>4. 諮問</p> <p>続きまして、市長から審議会への諮問を行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>(諮問)</p>
事務局	<p>ここで、誠に申し訳ございませんが、高畑市長におきましては、この後公務のため退席をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>(高畑市長 退席)</p>
事務局	<p>それでは、これからの議事につきましては、ふじみ野市総合振興計画審議会条例第4条第2項の規定に基づき、中村会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
中村会長	<p>では、ここから進行させていただきます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p>
中村会長	<p>5. 議題</p> <p>(1) 策定方針及び策定スケジュールについて</p> <p>まず議題(1)「策定方針及び策定スケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料5「ふじみ野市最上位計画策定方針」、資料6「ふじみ野市最上位計画策定スケジュール(案)」、「ふじみ野市総合振興計画基本構想／前期基本計画」を基に説明)</p>

中村会長	<p>ありがとうございました。今の事務局の説明に対して、ご質問やご意見がありますでしょうか。</p>
中村会長	<p>私からよろしいですか。これを策定するにあたって、タウンミーティングや「オールふじみ野」未来政策会議などの意見を反映させる予定だと思いますが、このスケジュールを見ると、「オールふじみ野」未来政策会議の第1回が9月になっているのですが、そうすると、基本構想に絡めないというイメージになるのですが、これはよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>「オールふじみ野」未来政策会議の件に関しましては、予定では9月28日とありますけれども、この段階である程度基本構想がまとまっている予定です。よって「オールふじみ野」未来政策会議の中では、基本計画における大まかな体系を示したうえで、基本計画全体に対して市民自らが、ふじみ野市を良くするためにどのようなことができるかといった提案をしていただこうと考えております。また、12月14日をまとめ会議として、そこで出た意見を審議会に提案させていただいた後、計画に反映できるものについては反映をさせていきたいと考えております。なお、タウンミーティングなどの意見につきましては、現在取りまとめをしている最中となっております。</p>
中村会長	<p>「オールふじみ野」未来政策会議の提案は、事務局である程度整理したうえで、本審議会に示していただけるという認識でよろしいですか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
中村会長	<p>各委員に説明しておかなければいけないのが、お手元にも配られている「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」というものがあります。これは、要するに今、日本の国そのものが人口減少と東京一極集中が非常に問題になっていて、国が非常に焦っております。基本的には、50年後になると人口は1億人を切って9,000万人くらいになるという、危機感を持っております。かつ、東京一極集中で、東京というのは女性が子どもを産んで育てるには非常に厳しい環境であるという、この2つが課題になっています。それを是正したいということで、国が日本中に大号令をかけまして、人口減少を見据えて、各市町村がどういう人口になるのかをまず押さえなさいということで、ふじみ野市も2060年までの人口の推計を予測しております。かつ、それに基づいてどういう市にするのかという形で策定したのが、この「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。これは国で言うと、何も方策を講じなけれ</p>

	<p>ば9,000万人を切って、8,000万人になってしまうと想定をしているものです。できれば、2060年に1億人という人口を維持したいということで、これはきちんとKPIという指標が示されていて、ふじみ野市としても達成すべき目標が設定されているという計画なのです。かつ、今度は最上位計画を作るので、各計画がどうなっているのかを整理する必要があり、本審議会としてはこれとの整合性も少し意識しなければいけない部分があります。そういった意味では、委員の皆さん、ぜひこの「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中身を一読していただく必要があると思っております。</p> <p>必ずしも、これに引きずられる必要はないと思っておりますが、一応これを理解した上で、我々は最上位計画をどうするかという議論にしていきたいと思っております。その結果、場合によってはこれと乖離するものが出てくれば、そこは事務局とも相談して、最終的には最上位計画の位置付けと、こちらの「ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の位置付けをどうするかという調整も含めて、審議会の中では意見交換をしていきたいと思っております。</p> <p>あと、今、事務局が示されました13年の計画期間というのは珍しいです。初めて見ましたが、果たしてそういう年次がいいのかとか、基本構想と基本計画と実施計画の3段階でやるというのはよく行われるパターンの1つですが、この辺も別にこれが絶対というわけではありません。例えば、こういう案はどうですかというご意見をいただいても構わないと思っております。基本的に、基本構想とか基本計画が決まると、これに他の施策がぶら下がってきますので、この辺の議論をきちんとしていかないと、少し方向性がずれてしまう可能性があり、そこは注意していきたいと考えております。</p> <p>最上位計画の策定にあたって、何かお考えとか、こういうところに注意してほしいというのがありましたら、ご意見を伺いたいと思っております。いかがでしょうか。</p>
柳沢委員	<p>私も会長と同じように、人口推移のことがすごく気になりました。平成42年をピークに減少するというのがどういう根拠で、頑張ってもやはり減少していくのか、まだ少し望みがあるのか、その辺をお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>お手元に「ふじみ野市人口ビジョン」を出していただいでよろしいでしょうか。こちらの53ページをお開きください。中村会長から説明がありましたように、急激に進む人口減少社会をどう克服していくかということで、ふじみ野市としてさまざまな施策を展開した結果、将来の人口はこの程度見込めるというものでございます。</p>

<p>中村会長</p>	<p>53ページを見ていただきますと、2つ目の段落に、まず大きなものとして「合計特殊出生率」がございます。合計特殊出生率につきましては、計算式がありますけれども、地方創生に向けた意識調査ということで市民アンケート等を実施した中で、希望されるお子さんの数ですとか、こういう政策が展開できれば、この程度産んでみたいという意見などを参考に、計算式により求めると、ふじみ野市の場合希望出生率は1.8と導き出されました。具体的には、現在、本市では最新が1.4ですが、当時、1.36で想定していたものを、最終的には2030年（平成42年）に1.8に持っていきますという目標を定めたものでございます。また、ここで今、社会移動ということで、大規模・中規模の宅地開発などふじみ野市ではかなり行われておりますので、これもある程度、3段落目の「また」以降に、「2010年から2015年にかけて大・中規模の宅地開発が続いていきましたが」と書いてありますけれども、その後も若干、2016～2020年にかけて、100戸程度の戸建てや50戸程度のマンションが毎年1つずつくらい建つだろうという見込みを立てて人口推計をしました。</p> <p>その結果が、54ページに図式化されたものでございます。ピークは2030年となっておりますが、市の将来展望ということで、この数字が11万7,362人になっております。国勢調査等だけで、国の国立社会保障人口問題研究所というところの推計を使いますと、何もしないとパターン1で10万3,705人。ここを、先ほど言った出生率を上げる子育て施策等を実施することによりまして、11万7,362人に持ってきたいという目標を定めております。この後、最終的に2060年、10万8,505人というところまでの減少が予測されるのですけれども、おおむね10万人程度は維持できるであろうという目標を立てたという内容です。</p> <p>ありがとうございます。これは99%当たる推計なので、多分、ふじみ野市が施策を打たないで何もしなければ、減少傾向になってしまう。では、その推計を頑張ってみようということで、市独自にいろいろな施策を打っていくと真ん中のグラフです。今、市が考えている施策全部をやって、かつ市民の希望のアンケートも全部満足するのであれば一番上のグラフになるという、そういう極めて夢の世界がこのグラフです。それでも実は減るのです。</p> <p>ただ、全国的に見ると、この辺の東京近郊の市町村は非常に恵まれています。人口増がまだ10年くらい続くのです。地方の都市ですと、もう既に人口減少が始まっている都市があつて、それこそ人口消滅都市と言われております。そういった意味では、ふじみ野市は、10年間くらいはある程度人口が増える中で、その後、人口が減少するというのをにら</p>
-------------	--

<p>富田副会長</p>	<p>んで、どう都市設計をするかという都市の特徴があるということをご理解していただいた上で、議論していただくのがいいかと思います。他にいかがでしょうか。この辺は、またおいおい審議をする中でご意見があったら、遠慮なく言っていただければと思います。</p> <p>先ほど会長の方からも発言があったのですが、こういった計画を作る段階で、10年間という切りのいい数字ではなくて13年間として、それは人口減に転じる平成42年を見越して13年としたということなのですが、結局数字も予測の数字でありますから、あまり13年間というところに必然性はそれほどないのかと感じました。13年でなくてはいけない理由というのは、何か他にもう少し根拠みたいなものがありましたらお示しいただきたいのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>もともと今までの法的な縛りの中で、各地方自治体がこういった最上位計画を作った中では、10年という計画期間が一番多かったと思います。市町村によっては、20年や15年、また10年より少し短いような市町村もあったかと思うのですが、そもそも、富田副会長がおっしゃったとおり、10年という期間についても何の根拠もなかったのです。なぜ10年なのかというところの中で、私どもは今回、新たな発想で、法的な縛りではなくて、本当に自らの責任において作るという中で、その年度に何か目標がないと、その計画期間とはいったい何なのかと問われたときに、なかなか説明が難しいと思いましたので、一応この「ふじみ野市人口ビジョン」の中で示させていただいたとおり、人口が一番ピークのところに計画期間を定めました。そういった中で、今回と同じようなサイクルで作るのであれば、その2年くらい前から新たな計画を作るかと思しますので、ちょうどそこら辺で目標を達成しているのか、まだまだほど遠いのかというところを見るのには、その辺りがいいと判断し13年と設定しました。</p> <p>日本人的な感覚ですと、13年は切りがあまり良くないかと思うのですが、今までの計画期間そのものに何の根拠もなかったので、今回、事務局の方で13年という形で示させていただきました。ただ、それがこの「ふじみ野市人口ビジョン」で示したとおり、人口のピークを目標年次としているので、これが本当に、相当乖離が生じれば、また何か別のところで見直しも必要かと思えます。それを見直しする際には、また議会の議決をもって見直す形になると思えます。</p>
<p>中村会長</p>	<p>我々は人口が減少するというところも視野に入れた上で議論して、13年後の人口がピークになるところまでを一つの区切りとして策定しましょうということ。さらに次の最上位計画策定の際には、人口減少</p>

	<p>をまさににらんだ形に切り替わるというのがあります。今回の計画まではある程度人口が伸びる状況ですから、そうすると人口が伸びるためにはどういう計画が必要かというところを考える必要があります。よって、13年の間と13年後は、全く策定の方針が違ってくる可能性があります。13年までは、人口が伸びるという想定で、インフラだとか都市計画も全部策定する必要がある。その後は、逆に人口減少で都市計画というのをやっていかないといけない。そうすると、少しパターンが違うかなという想定がされるので、現段階では13年を計画期間とすることでもいいかと思います。</p> <p>人口推計が実際に当たるか当たらないかという問題は、確かにあります。現計画の総合振興計画で示した将来人口では平成29年に12万人に達すると推計をしていましたが、実際には到達しないと思いますので、そういう場合は途中で見直すということがあると思います。今回の最上位計画は現段階では伸びる間を一つの区切りで見るとするのは、考え方としてあると思います。いかがでしょうか。</p>
富田副会長	<p>特に、13年というのがいけないという意味で申し上げているのではないのです。なぜ13年なのかというところが、疑問に残るところかなと思いました。</p>
中村会長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
牛場委員	<p>ただ、現実問題として、策定した内容によって、その13年は変わってくるわけです。では、きちんと策定したとおりにやったら、13年後増えたという結果を生み出せるような策定ができるかというのも、非常に大きな課題だと思うのです。そうならなかったら、その前から減少が始まってしまうということになりますから、ある意味もう少し前で、いったん切ってもいいのではないかと思います。</p>
中村会長	<p>考え方として、前期基本計画と後期基本計画がありますから、前期基本計画を一つのスパンで見ます。その時点で、後期基本計画は場合によっては大胆な見直しも含めて検討するというのを条件にする。例えば、この審議会が答申するときに、やはり13年で長くなりますと、そこは変動要素、不確定要素が多い。そうすると、13年をここで全部一気に決めて確定させるというよりは、前期が終わった段階で人口推移においては大胆な見直しを含めて、後期の策定をするということを、どこかにコメントで書くという、そういう方針でいかがですか。</p> <p>確かに最上位計画を作ると、作っておしまいみたいところが往々にしてありますが、そこは常に見直しをするという姿勢が必要かなと思いま</p>

<p>中村会長</p>	<p>すし、民間の発想でいくと、当然経営状態を、それこそ赤字にならないように必死になって頑張らなければいけないので、毎年見直すくらいの話です。場合によっては見直し、チェックというのは、毎年、市側でしていただいて、評価を前期の中間点で大幅なチェックをかけて、修正をする必要があると思います。チェックの方法とかやり方とか、その辺も少し議論していきたいと思います。</p> <p>他になければ次の議題に移ります。</p>
<p>中村会長</p>	<p>(2)「市民意識調査について」</p> <p>議題(2)「市民意識調査について」、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料7「平成27年度ふじみ野市市民意識調査結果の概要」を基に説明)</p>
<p>中村会長</p>	<p>ふじみ野市が、将来、人口を増やそうという発想だとすると、どうやって外から呼び込もうかという話になります。例えばふじみ野市に転入された人に、「何が良くてふじみ野市に来たか」というような、そのニーズ把握ができる方法はないですか。この辺はコンサルさんの方で、何かありませんでしょうか。</p>
<p>事務局 (アビームコンサルティング)</p>	<p>一般論ですが、転入・転出時に窓口にてアンケートをとる方法があると思います。</p>
<p>中村会長</p>	<p>転入される人はふじみ野市の何が魅力で転入されたかというところを把握する必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>「ふじみ野市市民意識調査票(平成28年度実施分)」の設問の間1で、ふじみ野市にお住まいになったきっかけを聞いており、その中で、どういうところに魅力を感じてという設問を設けています。住んでいる年数などもリンクして集計することができますので、1年未満の方は、例えばどういうニーズで転入されたということが報告できると思います。</p>
<p>中村会長</p>	<p>では、分析結果が出たときにふじみ野市の魅力というのを見れば、ある程度、方向性が分かると思います。他にご意見はありますか。</p>
<p>柳沢委員</p>	<p>資料7「平成27年度ふじみ野市市民意識調査結果の概要」の7ページに、重要度と満足度の散布図があります。Aゾーン、Bゾーン、Cゾー</p>

<p>事務局 (アビームコンサルティング)</p>	<p>ン、Dゾーンがあるわけですが、今後どのゾーンが一番重要になってくるのでしょうか。どのゾーンに対して施策を打った方がいいか、多分作られた理由があるはずです。</p> <p>資料7「平成27年度ふじみ野市市民意識調査結果の概要」、7ページをご覧くださいと思います。今委員からご指摘がありました満足度と重要度を、A、B、C、Dに分けたものとなっております。これはあくまでも、市民から見たという視点になりますが、基本的にはこの中で、重要度が高く満足度が低いというAの部分が政策としては優先順位が高いと思います。市民の満足度を高めていく必要があるのではないかとされる部分となります。</p> <p>次に、Bの部分、重要度が高く満足度も高い部分に関しては、やはり重要度が高いと言われておりますので、ここを下げないような取り組みも必要であろうと言われております。</p> <p>Cの部分、重要度が低く満足度も低い部分、これは市民の方がそのようにされているということでもありますので、本当にこの部分に力を入れて進めていく必要があるのかどうなのか、改めて振り返って決める必要があると言われております。</p> <p>逆に、Dの部分、市民の重要度は低いけれども、満足度が高い部分になりますが、この部分はある程度の施策が足りているといった見方をすることが多くございますが、その満足度の原因を改めて把握することによって、この部分に力を入れていくのかどうなのか決めていくべきだと言われております。</p> <p>当然、ここで分類したからといって、直ちにここが最優先ということは必ずしも言い切れないわけでございますので、1つの参考として捉えていただけるような仕組みとなっております。</p>
<p>中村会長</p>	<p>今の説明にあったとおり、市民が回答したということなので、場合によっては議論の中で、「市民はこう考えているけど、これってちょっと意識を変えなきゃいけない」というのがあるかもしれません。これは、あくまで市民が現状で思っているということだと思いますので、そういう議論をしていきたいと考えています。</p>
<p>中村会長</p>	<p>他に意見が、ないようであれば次の議題に移ります。</p>
<p>中村会長</p>	<p>(3)「ふじみ野市の現状と課題について」 では、議題(3)「ふじみ野市の現状と課題について」、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局 (アビームコンサルティング)	(資料10「ふじみ野市の現状」、資料11「ふじみ野市を取り巻く環境」を基に説明)
中村会長	今の説明についてご質問、ご意見ありますでしょうか。
牛場委員	<p>ふじみ野市の人口を5歳ずつで区切ったときに、通常ですと他の自治体だと65歳以上が一番多いはずなのですが、ふじみ野市はなぜか40歳～45歳までがピークとなっています。これは平成26年度の数字だだと思いますが、去年の「オールふじみ野」未来政策会議の時に調べた数字です。つまり、本当は今の段階で高齢者人口がピークになっているはずなのが、40～45歳の人口がピークとなっています。65歳以上よりも多いです。これは資料11ふじみ野市を取り巻く環境にもあるのですが、平成52年に65歳以上は大きく増えている。他の都市と比べると1,000人以上は増えていると思います。ということは、我々が考えるときには、そこが1つの相違点として見る必要があると思うのですが、その辺の数字が全然出てきていないのです。</p> <p>数字はいろいろな見方があるし、何を基準にしてどう考えるかというのはいろいろありますが、この辺のところは結構大きなポイントではないかと思っています。その辺はいかがでしょうか。</p>
事務局 (アビームコンサルティング)	おっしゃるとおりだと思います。例えば、この資料の中に人口ピラミッドを入れ込むような対応をしてみたいと思いますが、全国では団塊の世代が一番多い中で、ふじみ野市の場合は団塊ジュニアの世代が一番多いという状況のご指摘かと思しますので、それが読み取れるような資料を作っていきたいと思います。
中村会長	結構、それは重要なポイントです。他の都市は、団塊の世代を支えるのが団塊ジュニアと言われています。そうすると、団塊ジュニアが多いということは、団塊の世代を支える人口が多いので、アドバンテージなのです。これはすごい要素です。
中村会長	他に意見等がないようでしたら、次の議題に移ります。
中村会長	(4) その他 議題(4)「その他」について事務局から何かありますでしょうか。
事務局	次回、第2回の会議日程については、9月1日木曜日、同様に午後7時から本庁舎2階のAの202会議室で予定しております。よろしくお願いいたします。事務連絡は以上となります。

中村会長	<p>6. 閉会</p> <p>ありがとうございました。それでは、これもちまして、「平成28年度第1回ふじみ野市総合振興計画審議会」を終了いたします。ありがとうございました。</p>
------	---